



エコアクション21
認証番号 0003390

エコアクション21

2025年度 環境経営レポート

活動期間：2025年4月～2026年3月



東北硅砂株式会社

発行日：2026年6月10日

目次

1. 組織の概要	p.3
2. 認証登録の対象範囲及び組織	p.4
3. 環境経営方針および行動指針	p.6
4. 環境経営目標	p.7
5. 環境経営計画	p.9
6. 環境経営の実績 （およびその他の取り組み）	p.11
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価	p.19
8. マネジメントレビュー	p.20
9. 2026年度の取り組み目標・内容	p.21

1. 組織の概要

①事業所名及び代表者名

東北硅砂株式会社
代表取締役社長 平林 賢次

②所在地

本社工場 山形県北村山郡大石田町大浦字中ヶ袋26

③環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 取締役工場長 川島 幸男
連絡先 電話 0237-35-3626 Fax 0237-35-3637

④事業活動の内容

窯業原料(ガラスびん)、各種建材用硅砂の製造、流動床ボイラー用砂販売

⑤事業の規模

活動規模	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
総生産量	t	62,435	59,098	58,409	57,161	60,089
売上高	百万円	595	598	640	674	700
従業員	人	22	22	23	23	24

2. 認証登録の対象範囲及び組織

2-1 対象範囲

- ① 採掘場 山形県北村山郡大石田町次年子地内
- ② 捨石堆積場 山形県北村山郡大石田町大浦地内
- ③ 本社工場 山形県北村山郡大石田町大浦字中ヶ袋26

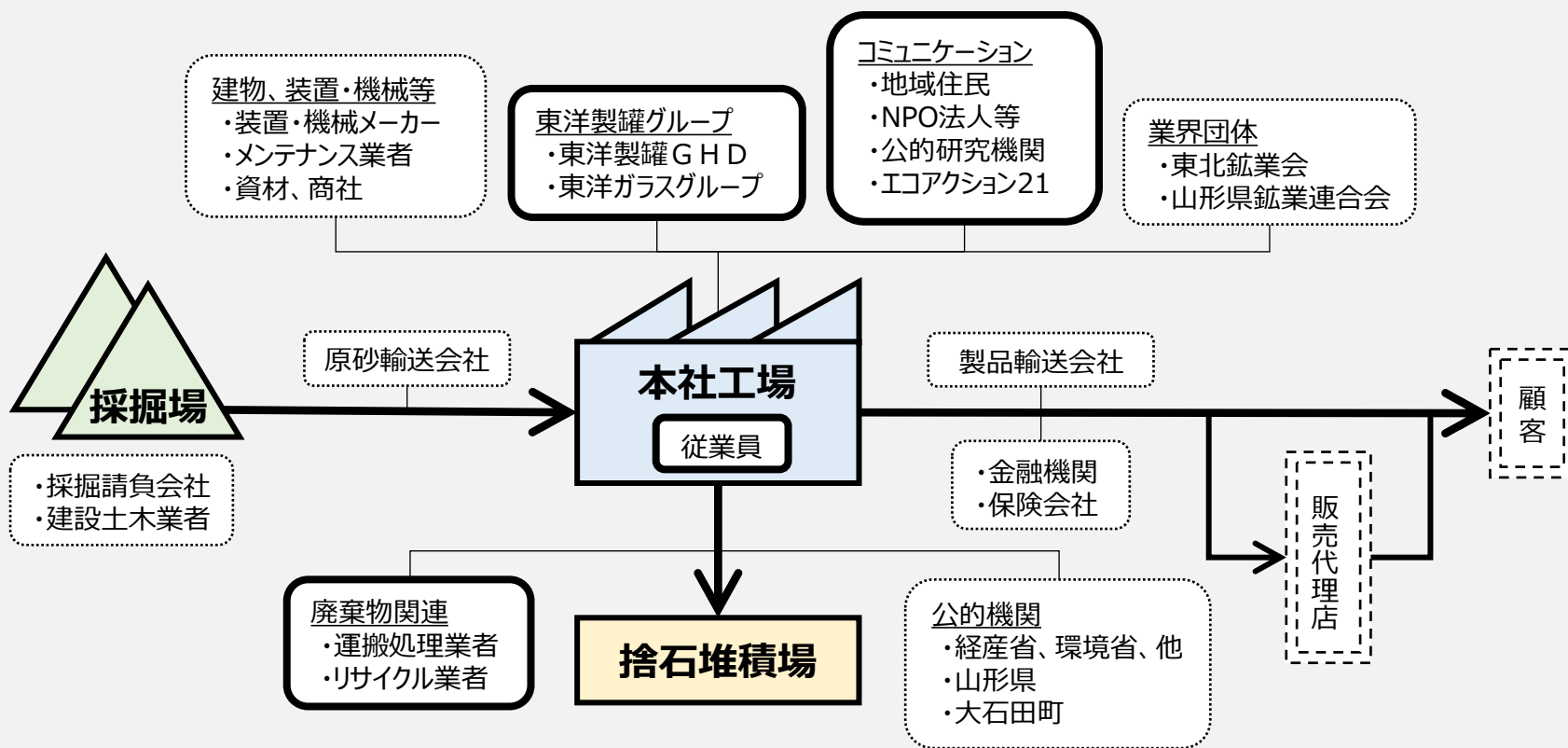
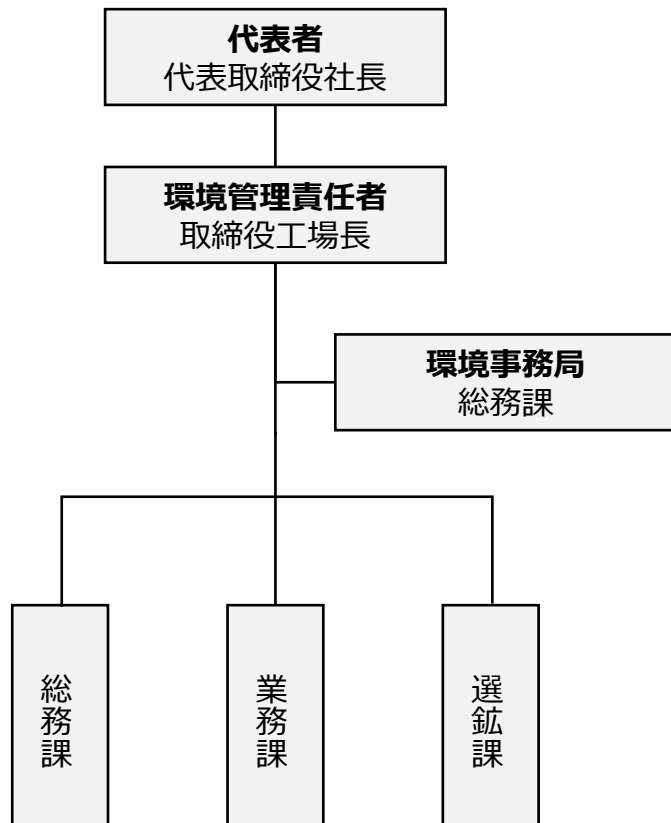


図1. 利害関係者と活動範囲の詳細 (実践が取り組みの対象・活動および環境保全活動で関連のある範囲)

2. 認証登録の対象範囲及び組織

2-2 環境経営システム組織

● 組織図



● 役割・責任・権限

代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none">・環境経営に関する統括責任・代表者による全体の評価と見直しを実施・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知・環境経営システムの構築・環境目標の作成および活動計画書の承認・環境関連法規等の取りまとめ表を承認・環境管理責任者の任命・実施体制の構築・環境経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none">・環境経営システムの実施、管理・環境活動の取組結果を代表者へ報告・従業員に対する教育訓練の実施・特定された項目の手順書作成及び運用管理・特定された緊急事態への対応のための手順書作成・問題点の発見、是正、予防処置・活動計画書の作成・環境関連法規等の取りまとめ表の作成・環境活動レポートの作成
環境事務局	<ul style="list-style-type: none">・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施・「環境関連法規等取りまとめ表」に基づく遵守評価の実施・環境活動の実績集計・特定された緊急事態への対応のためのテスト・訓練・記録・環境関連の外部コミュニケーションの窓口・環境活動レポートの公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
全従業員	<ul style="list-style-type: none">・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

3. 環境経営方針および行動指針

● 環境経営方針

私たちは、東洋製罐グループの一員として、環境経営を実践します。そのために、環境保全に取り組み、環境負荷の低減に努め、環境影響の継続的改善を行います。

● 環境保全への行動指針

私たちは、環境方針に則り、鉱山より採掘した天然硅砂を水洗・乾燥させ、ガラス原料、建材用、鋳物用、人工芝用、流動床焼却炉用等、各種用途に合わせた砂の製造販売する事業活動を行う中で、以下の環境管理活動を行います。

1. 環境関連法規制や当社が同意したその他の要求事項を順守します。
2. 環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的改善に努めます。
3. 電力・燃料の使用量の低減に努め、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
4. 廃棄物の排出量を削減し、分別により再資源化を推進します。
5. 環境に配慮した製品の販売に努めます。
6. 廃水の水質管理に努めます。
7. 地域、社会環境貢献活動に参加します。
8. 全従業員にこの環境方針を周知し、環境に優しい会社づくりに努めます。
9. 環境への取り組みを環境経営レポートとしてとりまとめ公表します。

制定日：2023年4月1日

東北硅砂株式会社

代表取締役社長 平林 賢次

4. 環境経営目標

2025年度 環境経営目標

1. 二酸化炭素排出量を削減する (基準年…2019年度)

2025年度目標 (中期目標) ; 二酸化炭素総排出量 1,812ト/年(2024年度実績)

1-1. 灯油使用量の削減 (原単位の向上)

	灯油使用量	CO ₂ 排出量	基準年比
	L/年	t/年	%
基準年 2019年度	454,673	1,131	—
中期目標 2025年度	415,100	1,033	▲8.7%

1-2. 電力使用量の削減

	電力使用量	CO ₂ 排出量	基準年比
	kWh/年	t/年	%
基準年 2019年度	1,301,439	769	—
中期目標 2025年度	965,029	575	▲25.2%

* 基準年…CO₂排出係数 (tCO₂/kWh)=0.000596

1-3. 軽油使用量の削減

	使用量	CO ₂ 排出量	基準年比
	L/年	t/年	%
基準年 2019年度	90,729	238	—
中期目標 2025年度	77,790	204	▲14.3%

4. 環境経営目標

2. 廃棄物の分別を徹底し、再利用・再資源化処理割合目標を達成する (基準年…2019年度)

再利用・再資源化処理割合の維持

2025年度目標 (中期目標) ; 90%以上 (2019年度 : 94%)

3. 水質の管理を徹底する

廃水の水質基準値を守る

2025年度目標 (中期目標) ; 廃水水質基準 PH5.8~8.6、SS(濁度)100以下

4. 環境関連製品を販売促進する (基準年…2019年度)

ろ過砂、流動床式焼却炉に対応する製品の販売を維持する

① 2025年度目標 (中期目標) ; ろ過砂、流動床砂出荷先数 17社/年 (基準年17社)

② 2025年度目標 (中期目標) ; ろ過砂、流動床砂出荷量 10,550t/年 (基準年10,538t)

5. 地域環境保全活動を実施する

地元地域の環境衛生活動に参加する

2025年度目標 (中期目標) ; 年2回以上

6. 従業員への環境教育を実施する

定期的に環境教育を実施する

2025年度目標 (中期目標) ; 年9回以上

制定日 : 2025年 4月16日
東北硅砂株式会社
代表取締役社長 平林 賢次

5. 環境経営計画

環境経営目標を設定した6項目について、各項目で下記活動計画を策定し取り組みました。

1. 二酸化炭素排出量を削減する

1-1 灯油使用量の削減（原単位の削減）

- ・保管珪砂水分量の削減の取組み
- ・ロータリーキルン（焼成炉）の温度管理の徹底（最適設定温度の模索）

1-2 電力使用量の削減

- ・スラリー送り配管の圧力損失低下対策の実施
- ・休憩時間の消灯や作業場所以外の消灯等こまめな節電活動

1-3 軽油使用量の削減

- ・重機・フォークリフトのアイドリング時間の減少
- ・重機・フォークリフト・社有車の急発進・急加速の禁止

※上記3つのエネルギー使用量に関して生産量を補正した目標値及び管理限界値を設け管理する枠組みの構築

2. 廃棄物の分別を徹底し、埋立処分廃棄物を減少させる

* 埋立廃棄物排出量の削減

- ・適切な廃棄物分別の周知と徹底
- ・金属類の分別回収による資源化
- ・プラスチック・木くずのサーマルリサイクル推進

5. 環境経営計画

3. 水質の管理を徹底する

* 廃水の水質基準値を守る

- ・ポリ塩化アルミニウムの有効投与で水質を管理する
- ・高分子凝集剤の有効投与で水質を管理する

4. 環境関連商品の販売促進

* ろ過砂、流動床式焼却炉に対応する製品の販売を促進する

- ・代理店へろ過砂・流動床式焼却炉砂販路拡大の要請
- ・新規流動床式焼却炉砂購入先への販売促進

5. 地域環境保全活動に参加する

* 地元地域の環境衛生活動に参加する

- ・地区主催の清掃・美化活動への参加（例.最上川河川敷の清掃、県道清掃、草刈り等）

6. 従業員への環境教育を実施する

* 定期的に環境教育を実施する

- ・環境経営方針、環境経営目標の説明
- ・環境経営計画の活動内容・実績・結果の説明
- ・世界・日本の環境情報や東洋製罐グループの環境情報の説明
- ・外部講師招聘による環境基礎教育の実施

6. 環境経営の実績

● 目標と実績

各項目で基準年度とした中期計画を策定し、単年度毎の目標値を設定して活動を行いました。

目標項目	管理項目	2019年度	2023年度		2024年度		2025年度			評価
		実績	目標	実績	目標	実績	目標	目標(生産量補正)	実績	
1.二酸化炭素排出量を削減	排出量(t/年)	2,138	1,991	1,877	1,849	1,812	1,863	1,944	1,923	○
1-1灯油使用量の削減	排出量(t/年)	1,131	1,057	1,062	1,041	1,033	1,055	1,115	1,102	○
	灯油使用量(L/年)	454,673	424,962	426,700	418,166	415,100	423,852	447,980	443,000	○
1-2電力使用量の削減	排出量(t/年)	769	706	605	599	575	594	609	611	△
	電力使用量(kWh/年)	1,301,439	1,184,496	1,014,570	1,004,424	965,029	995,919	1,022,120	1,025,684	△
1-3軽油使用量の削減	排出量(t/年)	238	227	205	209	204	215	220	209	○
	軽油使用量(L/年)	90,729	86,580	78,264	79,547	77,790	81,828	83,965	79,778	○
2.埋立廃棄物排出量を削減させる(2022年度まで実施)	排出量(t)	1,410	/	/	/	/	/	/	/	-
2.再利用・再資源化処理割合を増やす(2023年度から変更)	処理率(%)	94	94	87.8%	90	93.6%	90	/	85.8%	×
3.水質管理を徹底する。	PH値、SS値	PH値6.4-7.8 SS値20以下	PH値5.8-8.6 SS値100以下	PH値6.5-7.3 SS値18以下	PH値5.8-8.6 SS値100以下	PH値6.7-7.4 SS値27以下	PH値5.8-8.6 SS値100以下	/	PH値6.6-7.3 SS値14以下	○
4.環境関連商品の販売促進(基準値を2020年度から変更)	販売量	10,538	10,550	10,242	10,550	11,569	10,550	/	14,882	○
5.地域環境保全活動への参加	実施回数(回)	2	2	2	2	2	2	/	2	○
6.従業員環境意識の向上	教育回数(回)	9	9	9	9	11	9	/	10	○
二酸化炭素排出係数(CO2/GJ)	灯油(CO2/GJ) 0.0678 (GJ/kL) 36.7		電力(t-CO2/MWh) 0.596 -			軽油(CO2/GJ) 0.0687 (GJ/kL) 38.2				

注) 二酸化炭素排出量の2025年度評価は目標(生産量に応じて目標値を生産量と燃料使用量の回帰式より補正)との評価。目標値と管理限界値の間は△とした。

6. 環境経営の実績

● 2025年度の当初目標評価未達成について

2025年度は電力量と再資源化率が未達成でした。

■ 電力

生産量に対する4月の電力使用量が管理限界を超えてに多くなった事が原因。
管理限界を超えた理由については特定出来なかった。

■ 再資源化率

再資源化される廃棄物の減少および埋め立て廃棄物の増加が要因。

6. 環境経営の実績

● 環境への負荷チェック

1) 2025年度の生産活動におけるマテリアルバランス

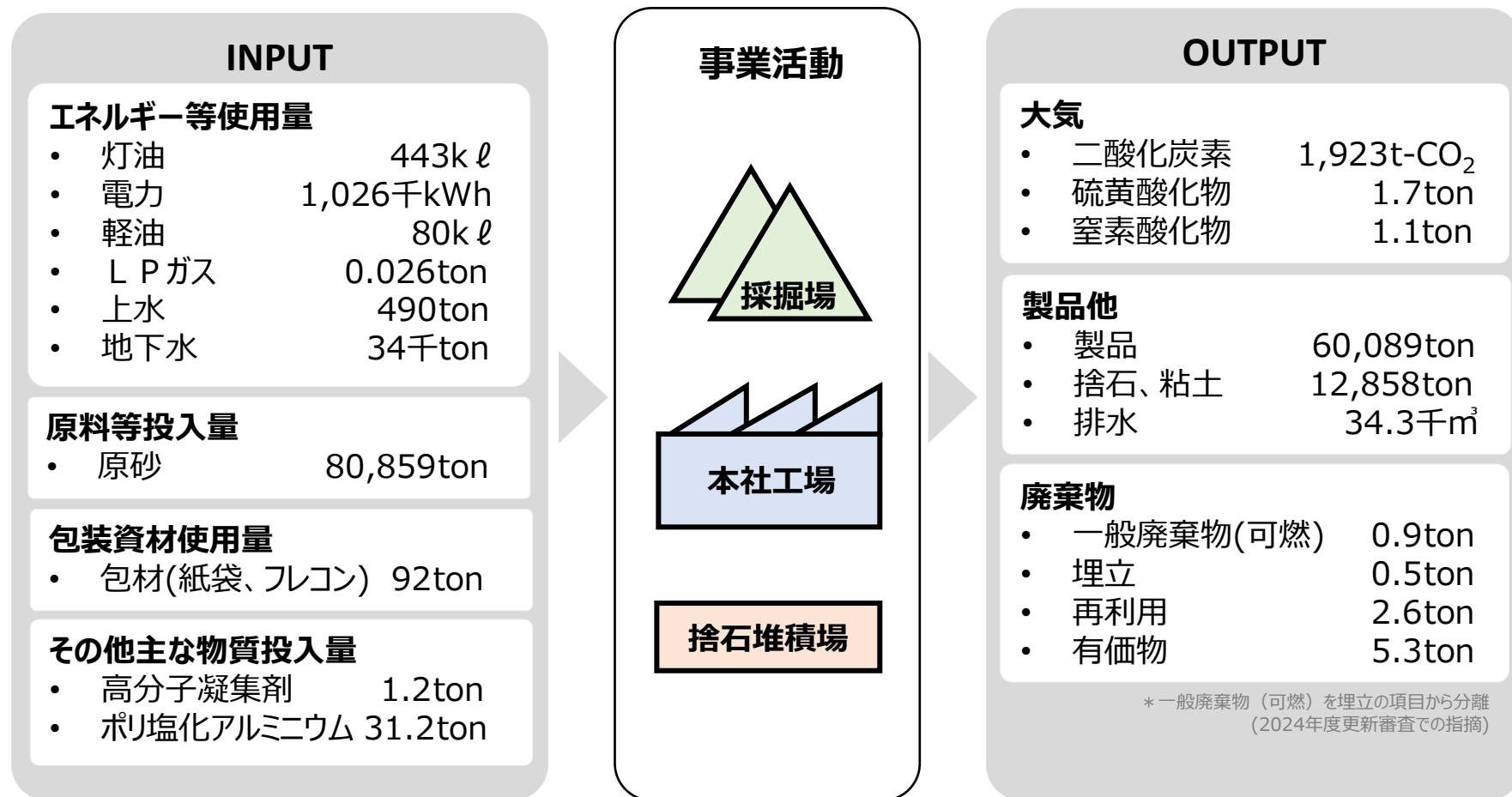


図 2. 生産活動とマテリアルバランス

6. 環境経営の実績

2) エネルギー別二酸化炭素排出量の推移

①エネルギーの使用状況（図3）

2025年度の生産活動におけるエネルギー起源の二酸化炭素排出量は、57%が珪砂の乾燥に使用する灯油（燃焼用）で最も多く、次いで電力が32%となっております。また、この割合は過去10年間を比較しても概ね同比率となっております。

②排出量の増減要因（図4）

2025年度の排出量は、前年比106.1%と増加しました。生産量補正による目標値管理では、電力以外は目標をクリア出来たが、年間CO2排出量は絶対値評価であり、2024年度に比べ生産量が4.5%増加した事が前年比増加の主要因と考えられます。

2025年度 二酸化炭素排出割合（%）

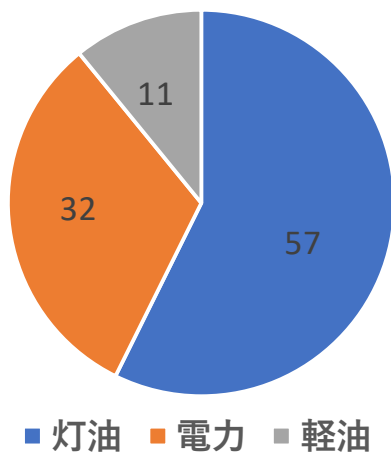


図3. 二酸化炭素排出量割合

二酸化炭素排出量の推移

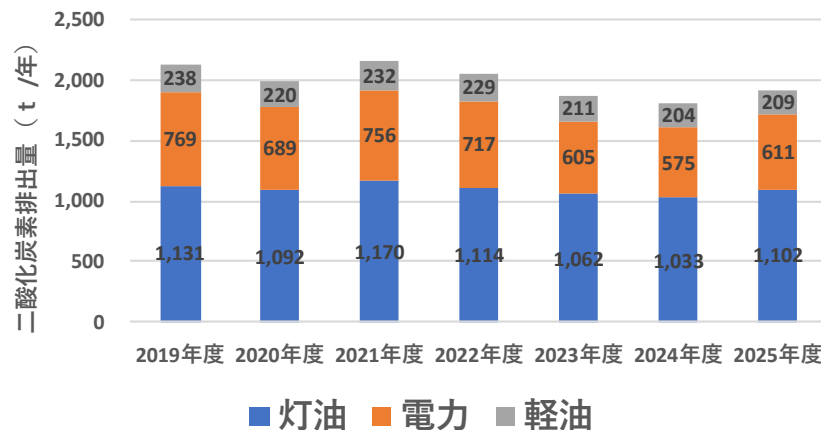


図4. 二酸化炭素排出量の推移

※電力事業者排出係数（2020年度～）東京電力ガスサービス：0.596t-CO₂/MWh

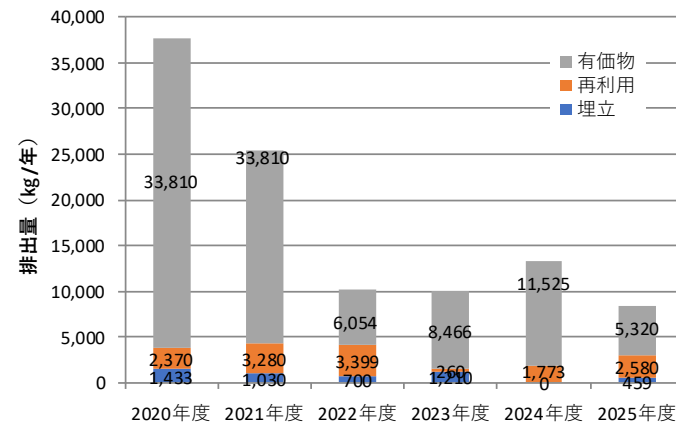
6. 環境経営の実績

3) 廃棄物の排出量の推移

2025年度は、廃棄物の内57%が有価物(鉄スクラップ、フレコン)であり、再利用(サーマル)を含めると85%を占めます。総排出量は、基準である2019年度よりも低い値となりました。

(kg)	2025年度	比率
一般廃棄物(可燃)	850	9.2%
埋立	459	5.0%
再利用*	2,580	28.0%
有価物*	5,320	57.8%
総排出量	9,209	100%
循環資源化*	7,900	85.8%

廃棄物排出量の推移



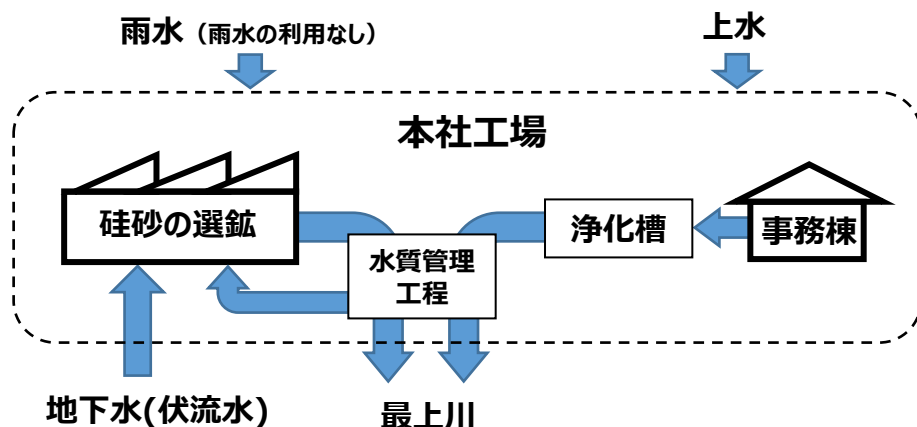
4) 水の使用状況

①上水使用量(飲料水等生活用、凍結防止用)

2025年度年間使用量 : 490m³

②井戸水使用量(砂泥の分離用)

2025年度年間推定使用量 : 34,272m³ (珪砂水洗生産量からの推定値)



水の使用量の大部分を占める井戸水系統にはメーターが付いていない。このため水使用量削減目標を立てて管理できるほど使用量を正しく把握する事が出来ないことから目標設定は行っていない。

6. 環境経営の実績

5) 地元地域の環境衛生活動への参加

- 地区主催の「クリーンアップ作戦」に参加
工場に隣接している公共道路及び最上川河川敷の清掃活動や工場周辺の美化活動を行いました。(2025年5月2日)



6) 環境教育の実施

- 従業員への定期的な環境教育の実施
当社従業員に定期的な環境教育を実施し、環境意識の向上に努めております。

2025年度は、計11回の教育を実施しました。

- ・環境目標の内容説明と進捗状況 4回/年
- ・外部講師より工場設備の省エネ事例紹介 1回/年
- ・世界・国内の環境関連情報の伝達等 6回/年

・環境情報
・環境事故事例
・法改正情報 etc.



6. 環境経営の実績

●環境教育の資料 (例)

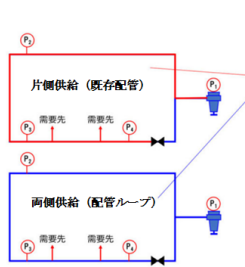
2026年3月9日発行

東北硅砂 インフォメーション No.25-55

コンプレッサー配管のループ化

圧縮空気が持つエネルギーは配管、継手、フィルタ及びバルブなどで圧力損失を生じます。この結果末端で流用不足・圧力不足が生じる場合があります。最終的にコンプレッサの吐出圧を上げる判断に至った場合、エネルギー増加につながります。これら**圧力損失改善策の1つにエア配管のループ化**があります。

【コンプレッサーエア配管のループ化実証実験】



配管条件	流量計 m³N/h	圧力計① Mpa	圧力計② Mpa	圧力計③ Mpa	圧力計④ Mpa
片側供給 (既存配管)	50.0	0.32	0.313	0.256	0.255
両側供給 (配管ループ)	59.4	0.32	0.318	0.318	0.318
吐出圧力の見直し (ループ+吐出圧下げ)	50.0	0.257	0.256	0.256	0.256

■ 圧力計毎に①⇒②⇒③⇒④の順に確認する。
 ※片側供給の場合(上の配管図)、少しずつ圧力が低下している。
 0.32Mpa⇒0.255Mpa
 ※ループ化の場合(下図配管)、ほぼ圧力は同圧である。
 0.32Mpa⇒0.318Mpa = 圧力損失の改善

■ 片側供給の時、流量は 50.0m³N/h であった。
 ループ化する事で流量は 59.4m³N/h まで上昇したので、50.0m³N/h まで流量を下げる事ができる。







当社のコンプレッサー配管でそのまま水平展開出来るかは検討が必要ですが、このような手法がある事は知っておいて損はないと思います。
 また、水配管でも同様な事ができるのであれば省エネ対策の幅が広がる可能性があります。

2026年1月16日発行

東北硅砂インフォメーション No.25-44

〈環境活動 結果発表〉
2025.4月～12月分

当社は、6つの年間目標を掲げ環境活動に取り組んでいます。

CO2排出削減	再資源化	水質管理	環境関連製品	保全活動	環境教育
					
エネルギー消費を抑える	廃棄ではなく可能な限り資源化する	基準値を越えた工場排水を出さない	環境保全を用途とした出荷数を伸ばす	地元地域の環境衛生を行う	従業員への環境教育
○ 102%	△ 99%	○ 100%	○ 126%	○ 100%	○ 100%

2025年度9カ月間では、電気と軽油のCO2排出削減と再資源化が未達成でした。どれも90%以上の未達ですので残り3ヶ月で達成できるよう各部署ご協力お願いします。

2025年度 4月～12月	目標	実績	達成率	評価
1. 二酸化炭素排出量を削減する				
年間目標：二酸化炭素総排出量 1,812t/年(仮)	1,464	1,434	102.1%	○
1-1. 灯油使用量の削減(原単位の向上)				
年間目標：灯油使用量 415,100L/年(仮)	337,654	315,800	106.9%	○
年間目標：二酸化炭素排出量 1,033t/年(仮)	840	786	106.9%	○
1-2. 電力使用量の削減				
年間目標：電気使用量 965,029kWh/年(仮)	768,881	800,822	96.0%	△
年間目標：二酸化炭素排出量 575t/年(仮)	458	477	96.0%	△
1-3. 軽油使用量の削減				
年間目標：軽油使用量 77,790L/年(仮)	63,160	65,108	97.0%	△
年間目標：二酸化炭素排出量 204t/年(仮)	166	171	97.0%	△
2. 廃棄物の分別を徹底し、再利用・再資源化処理割合を維持する				
再利用・再資源化処理割合の維持				
年間目標：90%以上(2019年度 94%)	90	89	99.3%	△
3. 水質の管理を徹底する				
排水の水質基準値を守る	基準値以下	基準値以下		
年間目標：排水水質基準 PH5.8～8.6、SS(濁度)100以下	9回	9回	100%	○
4. 環境関連製品を販売促進する				
ろ過砂、流動床式洗却機に対応する製品の販売を維持する				
年間目標：ろ過砂、流動床式出荷先数 17社/年	15	19	126.7%	○
年間目標：ろ過砂、流動床式出荷量 10,550t/年	7,660	11,439	149.3%	○
5. 地域環境保全活動に参加する				
地元地域の環境衛生活動に参加する				
年間目標：年2回以上	2	2	100%	○
6. 従業員への環境教育を実施する				
定期的に環境教育を実施する				
年間目標：年9回以上	7	7	100%	○

※二酸化炭素排出削減については実生産量に応じた目標を計算より設定

年間詳細も更新しました。
 休憩室掲示版、左隣【環境活動計画書】とグラフです。

6. 環境経営の実績

7) 緊急事態発生時の対応訓練

- 全従業員を対象とした緊急時の対応訓練を実施しました。(2025年10月24日)



7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価

当社に関連する法規の遵守状況を「環境関連法規等取りまとめ表」に基づき、年1回、遵守状況のチェックを実施しております。

2020～2025年度の過去6年間において法律違反、訴訟はありません。

	法律違反 の有無	訴訟 の有無	苦情等 の有無
鉱山保安法	無	無	無
廃棄物処理法	無	無	無
大気汚染防止法	無	無	無
水質汚濁法	無	無	無
浄化槽法	無	無	無
消防法	無	無	無
家電リサイクル法	無	無	無
自動車リサイクル法	無	無	無
道路交通法	無	無	無
労働安全衛生法	無	無	無
騒音規制法	規制対象地域外		無
振動規制法	規制対象地域外		無
フロン排出抑制法	無	無	無
化学物質排出把握管理促進法	該当なし		無

8. マネジメントレビュー

1. 環境経営方針

特になし

2. 環境経営目標

2026年度からは2025年度を基準年度として2030年度までの新中期計画を立てています。

2022年度からは特に省エネに重点を置いて改善を行ってきました。そのため二酸化炭素排出量に関しては、2019年度と2025年度を比較すると10%の削減を達成しています。今後は大幅な削減は見込めないため、小さな改善を積み重ねていく事になると思われます。このためCO2排出量に関しては2030年度までに2025年度比で5%削減を目指す目標としました。

環境関連製品の販売については、流動床ボイラー向け製品の拡販を図る事で年間1000tの販売増を目指す目標としました。

3. 環境経営計画

今後もエネルギーコストの上昇は続くと考えられますので、電力・灯油の省エネを推進する事で環境と経営基盤強化の両立を目指したいと考えています。

9. 2026年度の取り組み目標

1. 環境経営方針

環境経営方針の変更は行いません。

2. 環境経営目標

2026年度からは2025年度を基準年度として2030年度までの新中期計画を立てています。

3. 環境経営計画

2026年度以降も過去の燃料使用量と生産量の関係を調査し、外乱（ばらつき）を考慮して管理限界値を決めて管理する方法を採用したいと思います。
また、引き続き省エネに重点を置いた対策を検討したいと思います。

4. 環境経営計画の具体的行動

- ①電力消費量の多い設備に対する省エネ対策の実施
（設備の原理を理解した省エネ対策の実施）
- ②省エネ効果が見込まれる機器、工具、部品の導入検討
- ③重機・フォークリフト・社有車のアイドリング時間減少、急発進・急加速の禁止
- ④不在場所の消灯、空調・電気製品の電源停止を徹底
節電の掲示で気付き行動への誘導
- ⑤両面コピー、縮小コピー、裏紙コピーによるコピー用紙使用数減少の推進
- ⑥エアコン簡易点検(事務所、重機)の実施

9. 2026年度の取り組み内容

環境経営方針および環境保全への行動指針に基づいた6つの環境経営目標を設定し活動しております。数値目標に対しては基準年度を設定し、中期目標年度を2030年度として目標値を設定しております。今年度は新中期計画の初年度であり2025年度を基準年度として取り組んで参ります。各年度毎にPDCAを回しながら継続的な環境負荷の低減に取り組んでおります。

2026年度 環境経営目標

1. 二酸化炭素排出量を削減する (基準年…2025年度)

2030年度目標 (中期目標) ; 二酸化炭素総排出量 2025年度比で5%削減

※実際の生産量と回帰式に基づき目標値が決まるため、目標値は削減率としている。

1-1. 灯油使用量の削減 (原単位の向上)

	使用量 (L/年)	CO2排出量 (t/年)	基準年比 (%)
基準年 2025年度	443,000	1,102	—
今年 2026年度	438,570	1,091	▲1.0%
中期目標 2030年度		▲5.0%	

1-2. 電力使用量の削減

* 基準年…CO2排出係数 (tCO2/kWh)=0.000596

	使用量 (kWh/年)	CO2排出量 (t/年)	基準年比 (%)
基準年 2025年度	1,025,684	611	—
今年 2026年度	1,015,427	605	▲1.0%
中期目標 2030年度		▲5.0%	

1-3. 軽油使用量の削減

	使用量	CO2排出量 (t/年)	基準年比 (%)
基準年 2025年度	79,778	209	—
今年 2026年度	78,980	207	▲1.0%
中期目標 2030年度		▲5.0%	

9. 2026年度の取り組み内容

2. 廃棄物の分別を徹底し、再利用・再資源化処理割合目標を達成する (基準年…2025年度)

再利用・再資源化処理割合の維持

2030年度目標 (中期目標) ; 90%以上 (2025年度 : 86%)

3. 水質の管理を徹底する

廃水の水質基準値を守る

2030年度目標 (中期目標) ; 廃水水質基準 PH5.8~8.6、SS(濁度)100以下

4. 環境関連製品を販売促進する (基準年…2025年度)

ろ過砂、流動床式焼却炉に対応する製品の販売を維持する

① 2030年度目標 (中期目標) ; ろ過砂、流動床砂出荷先数 17社/年 (基準年20社)

② 2030年度目標 (中期目標) ; ろ過砂、流動床砂出荷量 11,550t/年 (基準年10,538t)

※2025年下期より流動床砂を大量に消費する大手設備のトラブルにより消費量が大幅に増えたため、2025年度の実績は突発増加分を引いた値とした。

5. 地域環境保全活動を実施する

地元地域の環境衛生活動に参加する

2030年度目標 (中期目標) ; 年2回以上

6. 従業員への環境教育を実施する

定期的に環境教育を実施する

2030年度目標 (中期目標) ; 年9回以上

制定日 : 2026年 4月16日

東北硅砂株式会社

代表取締役社長 平林 賢次



東北硅砂株式会社